広報 Ibaraki Public Information
いばらき
2025年（令和７年）
１月１日　発行
1
No.1121
January 2025

◆編集・発行
茨城町 町長公室 秘書広聴課
〒311-3192
茨城県東茨城郡茨城町小堤1080
☎ 029－292－1111
メールアドレス
ibarakit@town.ibaraki.lg.jp

◆人口
住民基本台帳
令和６年11月末現在
男　15,337人
女　15,222人
総人口　30,559人
世帯数　13,625世帯

◆茨城町民憲章
1 ふるさとの自然を守り、美しい環境の町をつくりましょう。
1 からだをきたえ、教養を高めて、すこやかな町をつくりましょう。
1 隣人や家庭の愛を大切にして、まごころのかよい合う町をつくりましょう。
1 自分の仕事に責任と誇りをもち、活気に満ちた町をつくりましょう。
1 文化遺産を愛護し、先人の努力に感謝できる町をつくりましょう。

◆町の花　桜
◆町の木　梅
◆町の鳥　うぐいす

◆町の防災行政無線が聞き取れなかった場合
防災行政無線テレフォンサービス
☎０８００－８００－８８４８
（通話料無料）
町ホームページにも放送内容を掲載しています。

◆町の情報発信中!!
●町公式ホームページ
https://www.town.ibaraki.lg.jp/
●町公式Ｘ（旧ツイッター）
https://twitter.com/IbarakiTownMati/
●町公式インスタグラム
https://www.instagram.com/townibaraki_official/
●町公式ライン
https://page.line.me/?accountId=ibarakitown

## 里山に育む生きものたち

### №150　カルガモ

学名　*Anas zonorhyncha*

写真・文　仲田　立

メス　　オス

▼**カルガモ（軽鴨）とは**

名前の由来に、万葉集で歌われた軽ケ池にいたからという説があります。日本の低地で夏に見られるのは本種だけなので、別名「なつがも」とも言われます。

湿沼で見られるカモ類のほとんどは冬鳥ですが、カルガモは留鳥として一年中身近にいます。湖沼、水田などの淡水域や、汽水域から海岸線まで、様々な環境に生息します。時には都市公園の池などでも繁殖し、子育てできる水辺へと親子で移動する様子がテレビで毎年のように放送されます。茨城県でもほぼ全域で繁殖しています。

カルガモは、くちばしは黒く先端は黄色、足は橙色です。雌雄ほぼ同色で区別が難しいですが、繁殖期など、雄は雌より尾の一部が黒く見えて、違いが解る場合があります。

▼**カルガモの数**

カルガモは、湿沼で番目に多いカモ類で、この3年は12月から2月の多い時に300羽ほど見られました。湿沼では一年中見られますが、繁殖期には周辺などに移動し、田んぼの近くの草地などで子育てします。冬季に子育てを終えたカルガモが湿沼に集合し、休んでいる群れが見られます。場所は、主に湖岸ですが、湿沼の近くで草や草の実などを歩きながら食べる姿を見ることもあります。

このように、カルガモ、マガモなどの水面採餌ガモは湿沼の岸近くで見られ、天候にもよりますが、スズガモ、キンクロハジロなどの潜水採餌ガモは湖岸から離れた場所で見られることが多いです。

同じ大きさの大型のカモなので、遠くからマガモの雌と区別することは難しいです。令和６年12月１日号掲載「マガモ」の写真とぜひ見比べてみてください。

カルガモの巣と卵

湖岸で休むカルガモの群れ
（網掛地内撮影）

## ちびっ子アート　長岡幼稚園

「御殿をめざすたつ」
はら　こうし（５歳）

「十二支のはじまり」
いちさわ　こうさい（６歳）

令和７年１月15日の広報いばらき（おしらせ版）は休刊となります。

再生紙を使用しています
PRINTED WITH SOY INK 環境に優しい大豆油インキを使用しています